

土岐川グリーンベルト通信 第96号

令和元年度「笠原の森」笠原中学校による活動報告

笠原中学校の1年生59名が、ふるさとの森「笠原の森」を舞台に、土砂災害と樹林の働き、樹林整備の意義を学ぶための学習、土砂災害に強い樹林を目指した樹林整備活動に取り組みました。

この活動は、多治見砂防国道事務所、多治見市ほか、多くのボランティアの支援のもと実施しました。

○学習会 9月27日

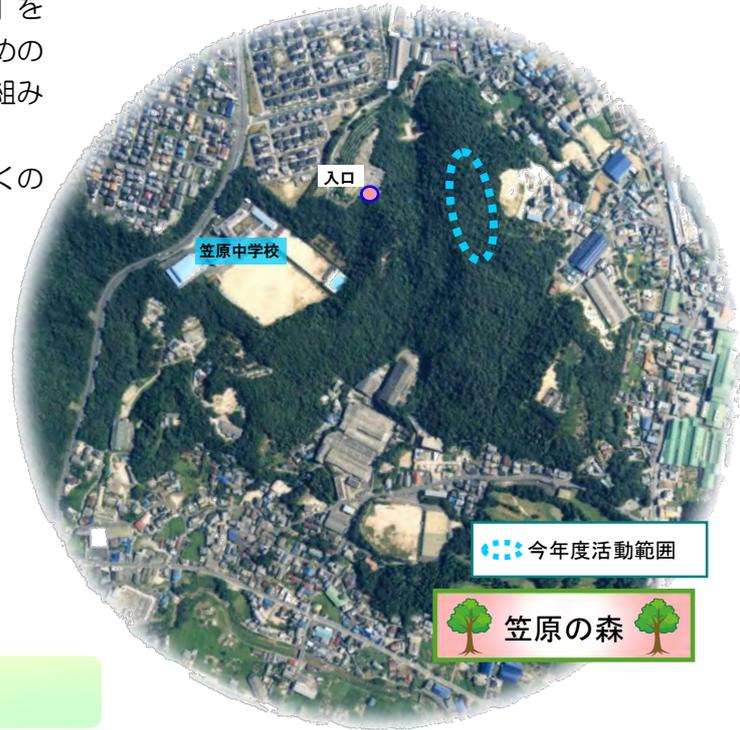
室内講義「砂防のはなし」「森林のはなし」
野外学習「土砂崩壊模型実験」「土石流模型実験」
「降雨体験」

○観察会 10月4日

野外学習「砂防堰堤の見学」「森の土の観察」
「森の木の観察」「玉切り体験」

○樹林整備活動 10月16日

野外学習「常緑低木や成長の悪い木の伐採（間引き）」



9/27 学習会

室内講義

砂防のはなし



「砂防のはなし」では、樹林地が荒廃していた笠原町の歴史や樹林整備の必要性を学びました。

森林のはなし



「森林のはなし」では、我々の生活のあらゆる場面に木や森が関わっていることをクイズ形式で学びました。
(資料提供：岐阜県森林組合連合会 中島様)



○樹林地の荒廃
(多治見市笠原町森下地区)
昔から窯業が盛んであったこの地域は、陶土の採掘や薪炭材の伐採のために、“はげ山”が広がっていました。笠原の森周辺も昭和20年代までは、はげ山が広がっていました。

野外実験

多治見砂防国道事務所による様々な実験

土砂崩壊模型実験



森がないと土砂が流れ出てしまいました。森の存在は大切です。

【生徒のコメント】

雨が降った最初の4分間は何事もなく油断していたが、一気に土砂が流れてしまうことを学んだ。台風などで油断しないようにしたい。

土石流模型実験



砂防堰堤によって、土石流の被害を食い止めることができました。

【生徒のコメント】

砂防堰堤があると町や橋が守れるのはすごい。堰堤の大切さがわかった。土砂災害の危険性を改めて意識させられた。

降雨体験



雨の威力を知りました。普段ほとんど体験できない時間降水量100mmを超えると恐怖を感じました。

【生徒のコメント】

雨の音で友達の話す声が聞こえなかった。楽しかったが、雨の怖さも感じた。



10/4 観察会

観察会では、「笠原の森」の中にある砂防堰堤を見学してその役割を学びました。また、土や木の観察を通して「笠原の森」に触れ合うとともに、森の中には暗い場所や成長の悪い木があることを知り、樹林整備活動が必要であることを学びました。最後に、玉切り体験を通して、次の樹林整備活動に向けてノコギリと剪定バサミの使い方を練習しました。

砂防堰堤の見学



土や木の観察



玉切り体験



10/16 樹林整備活動

樹林整備活動では、多治見砂防国道事務所や多治見市の職員、岐阜大学の学生ボランティアや多くの地域ボランティアの指導のもとで実際に木の伐採作業を行いました。活動前には装備や伐採時の注意点を確認し、ケガなく安全に活動を行うことができました。活動を通して、森の中が明るくなったことを実感するとともに、残された木がこれから大きく育つことで土砂災害を抑える効果が高くなることを学びました。

安全確認（危険予知活動）



伐採作業（支援者の指導のもと、仲間と協力して伐採を行いました）



枝払い（玉切り作業の前準備）



後片付け（玉切り作業を体験し、切った木の片付け方を学びました）



「土岐川流域グリーンベルト整備事業」は、多治見市・土岐市の市街地に隣接する山麓斜面を一連の緑地帯（グリーンベルト）として、保全・創出することにより、土砂災害を防止し、自然環境・景観を保全することを目的としています。

作成者・お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局

多治見砂防国道事務所

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6

TEL : (0572) 25-8020

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/>